

開会挨拶

日本政策金融公庫 総裁 田中 一穂

本日は大変お忙しいなか、多くの皆さまにご来場いただき、誠にありがとうございます。「第11回日本政策金融公庫シンポジウム」の開催に当たり、一言ご挨拶申し上げます。

本シンポジウムは、中小企業の皆さまが直面する今日的な課題をテーマに取り上げ、毎年開催しているものです。今年、『『観光立国新時代』における地域活性化と中小企業経営』と題して、インバウンド政策のフロントランナーである岐阜県高山市長の國島芳明さんや、インバウンドビジネスで成果をあげてこられた経営者の方々をお招きし、本日開催の運びとなりました。

政府による2003年の「観光立国宣言」以来、訪日外国人の数は増加基調をたどってきました。とりわけ近年の伸びは目覚ましく、2003年に521万人だった訪日外国人は、2013年には1,000万人、2016年には2,000万人の節目をクリアし、2018年には3,000万人を超えました。2020年には東京オリンピック・パラリンピックの開催を控えており、インバウンドはさらなる盛り上がりが見込まれます。中小企業にとっても、この旺盛な需要をどのように取り込み、追い風にしていかがが課題になると思います。

一方で、インバウンドは企業単体で完結するものではありません。旅行先として選ばれるためには、地域全体の魅力を高める必要があります。ここでいう

地域とは、市町村や場合によっては都道府県をも超えるような広いものかもしれません。インバウンドとは、まさにこうした地域が一丸となって取り組むべき課題といえるでしょう。

今回のシンポジウムでは、國島市長の基調講演をはじめ、当公庫総合研究所が数年にわたり行ってきた研究成果の報告、地域での取り組みを先導している経営者の方々と交えたパネルディスカッションを行います。これらを通じてインバウンドの誘致に向けた課題や工夫、成果、さらには将来への可能性などについて、深く掘り下げた議論ができればと考えております。

ご参加いただいた皆さまから忌憚のないご意見とご評価をいただくとともに、本日のシンポジウムがご来場の皆さまにも意義のあるものになることを願ひまして、私の開会の挨拶とさせていただきます。

